

令和3年1月25日

関係各位

熊本大学大学院生命科学研究部産科婦人科学講座
教授 片淵秀隆

拝啓

1月14日、熊本県は県独自の緊急事態宣言を発令しました。病床稼働率が63%、人口10万人当たりの療養者数が38人、1週間の平均PCR陽性率が13%、1週間の10万人当たりの新規感染者数が32人、前週比の2.3倍で、政府分科会が示す警戒レベルで最も深刻な「ステージ4」（爆発的感染拡大）に該当するとの判断からです。2月には熊本県にも15万本のワクチンが供給され、医療従事者を優先して接種が始まるようです。今回のワクチンは従来のウイルスを不活化したものやウイルスに一部のタンパク質を投与するものとは異なり、抗原となり得る一部のウイルスタンパク質のRNAを注射する新型ワクチンです。自然免疫やアレルギー反応の抑制、体内で分解されてしまう脆弱なRNAのコーティング技術の開発など、永年の研究の蓄積が一年足らずでワクチンの提供に至ったと青山学院大学の福岡伸一教授が解説していました。猖獗を極める新型コロナウイルス感染症を奇貨とした新たな学びです。

年末に患者さんのご家族から思いもかけない手紙とメールをそれぞれ頂きました。手紙は、10年ほど前に卵巣癌と手術をした患者さんの娘さんからでした。「母の手術をして頂き、10年が経ちました。今も明るく元気に過ごしています。90歳になる父との暮らしを続け、6人の孫の成長を見守ることが出来ました」。新年明けて1年ぶりに受診された時にお尋ねすると、お孫さんのひとは研修医で、もうひとは医学生だそうです。メールは、10数年前に子宮頸癌で広汎子宮全摘出術を受けた当時大学生だった患者さんのお父さんからでした。私が子宮摘出をした最も若い患者さんで、初診時に同伴された私よりずっと若いご両親の声を失った表情を今でも思い出します。「娘は結婚し幸せに暮らしています。あの時先生から頂いたお言葉、将来の医学がどうなるか、その時の為に娘に一つの卵巣を残して頂きました。その時は深く考える事ができませんでした。日本では生殖倫理でまだ出来ませんが、この度海外にて代理母で娘が子供を授かり、我が子を抱ける事ができました」。代理懐胎は、日本では倫理的、法律的、社会的、医学的な問題が解決されておらず日本では認められていない現状では、今回の事象は賛否両論あるところですが、私見に偏らない情報を広く提供することは大切だと思います。

2月と3月の予定表を同封致しました。私が教室の第9代教授として教室員の皆さんにお送りする最後の便りになりました。16年7か月、有り難うございました。

敬具